

序

近年の不整脈診療の進歩、発展は目覚ましく、多くの不整脈の発生機序が解明され、治療に反映されている。特に不整脈分野におけるカテーテルアブレーションの導入・発展は、不整脈の根治療法の確立はもとより、本法により不整脈のさらなる機序の解明にも寄与している。

カテーテルアブレーションは、不整脈の発生や維持に関与する部位を物理的に傷害し根治に導く治療法である。その対象疾患は、ほぼすべての頻拍症に及んでおり、現在、不整脈治療に欠かせない手技となっている。本法は当初、透視ガイドに施行されていたが、最近では、三次元マッピングシステムの開発と普及により、多くの施設で施行可能になるとともに、心臓電気生理検査のみでは困難であった起源やリエントリー回路の同定や焼灼も容易になってきた。また、アブレーションカテーテルの進歩やバルーンテクノロジーの開発により、深い焼灼や広範な焼灼も可能となり、有効性や安全性を高めている。

しかしながら、カテーテルアブレーションは疾患別に異なる手技・アプローチが必要であり、その習得は容易ではない。また、重篤な合併症が報告されているのも事実である。

本書は、疾患別のアブレーション手技を中心に、現在、最前線でアブレーション治療を行っているエキスパートに執筆していただき、アブレーションに必要な電気生理から基本的なカテーテル操作はもちろん、エキスパートだからこそ知っている手技のコツとともにトラブルシューティングや合併症を予防する詳細な解説を随所に盛り込んでいる。本書がアブレーション治療を学ぶ医師にとって、安全かつ迅速なアブレーション手技を修得するための手引き書として寄与できれば、望外の幸せである。

2015年3月

横須賀共済病院
高橋 淳